

年	組	名前
---	---	----

小中高生 スマホ浸透

携帯所有者の7割超

県は小中高の児童生徒の携帯電話・インターネット利用状況を保護者に尋ねた調査結果をまとめた。携帯電話を持っていない割合は55・1%と2年前を3・7割上回り、種類別ではスマートフォンが中学生を中心に急激に伸びて7割を超えた。有害サイトの接続を防ぐ「フィルタリング」を利用していないケースは3割を超え、保護者への啓発が課題と指摘している。

県が利用状況調査

所有電話のうちスマホが占める割合(%)		
	2012年度	2014年度
小学生(2.5年生)	2.6	10.5
中学2年生	12.3	57.4
高校1年生	65.7	92.1

携帯電話を持たせた主な理由(%)		
	2012年度	2014年度
連絡用	65.3	49.8
進学したため	12.9	17.2
子どもからせがまれて	10.0	13.2
周りが持っている	8.1	11.3

※県まどめ

県私学振興・青少年課に「進学祝い」を挙げる割合によると、本人所有や家族とが増えている。の共有などにより携帯電話 所有する携帯電話のうち持っているのは小学生が スマホが占める割合は71・25・8%、中学生が38・6 9%、2年前より23割増えた。高校生が96・1%だった。中学生は57・4%で45%。保護者が持たせる理由 ・1割の大幅増。小学生は「連絡用」が約半数で最 10・5%で7・9割、高校多だが、「周りが持っている」生も92・1%で26・4割。子どもにせがまれて」れぞれ上昇した。人気アプ

3割、サイト制限せず 「保護者の関与が課題」

リが利用できることなどが背景に考えられる。県が昨年度に条例を改正

し、18歳未満に原則求めているフィルタリングは、保護者の同意により「利用していない」(30・2%)、

「利用していたが解除した」(2・7%)との回答が6・5割増えた。理由として「子どもを信用している」が4割近く。「アプリが使えるなくなるため」など「子どもの不便」を挙げたのが13・6%と続いた。フィルタリングをしていない家庭で、時間制限などのルールを設けている割合は9割を超えたが、しない家庭ではルールを決めていない割合が3割に上った。近年は携帯電話だけではなく、ゲーム機や音楽端末でもインターネットに接続できるため利用の低年齢化が進んでいるとみられる。同課は「危険なサイトへの誘導、トラブルに巻き込まれないためにも保護者が関与することが欠かせない」と強調した。

調査は2012年度から実施。県は本年度、公私立の高校1年生、中学2年生、小学5年生の保護者4774人に学校を通じてアンケートを実施し、3990人(83・6%)から回答を得た。昨年度は調査実数が少なかったため、本年度は主に12年度と比較している。

(2014年12月4日朝刊21面)

大分県は小中高の児童生徒の携帯電話・インターネット利用状況の調査結果をまとめました。

①携帯電話を持っている人のうちスマートフォンは？中学生は2年前より何ポイント増えましたか。

.....

.....

.....

.....

②回答した3990人から計算して、スマホの所有人数は？

.....

.....

.....

.....

③「フィルタリング」は必要？ 必要ない？ 理由を付けて考えよう。

.....

.....

.....

.....